

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷会
 広報委員会
 洲本市中川原町
 中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551

ありがとう

食器を寄贈いただきました
 洲本市の芦原様から、どんぶりばちと湯飲みをたくさん寄贈いただきました。早速使わせていただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ふくろう畑で農作業!! ～ボランティアの皆さんの協力を得て～



▲ふくろう畑でみんな一緒に記念撮影

5月2日、世間はゴールデンウィークで混雑している中、ふくろうの郷では毎年恒例となりました「ふくろう畑で農作業」がボランティアの皆さんと行いました。
 今年は昨年までとは違い、5月2日、3日と2日間かけて大掛かりな作業となりました。



▲草を引きます

昨年まで主に植えていた夏野菜の数を抑えてサツマイモを大量に植えました。
 草刈機を使い、畑から中庭、裏山まで幅広く刈っていただきました。
 一番早い人は、なんと早朝5時半から来て草を刈っていたそうです。
 遠くは徳島の池田市からやダスキン研修生、そして入所者の皆さんも畑・中庭の草引きをおこないました。
 他にも畑につながる道を新しく作ったり、倒れかけた桜の木を支えなおし



▲くわで耕します

ていただいたり、藤の木に新しい支えを作り直して「藤の棚」になるように作りかえました。
 数年後にはこの藤の棚の下で入所者の皆さんとお茶会ができればいいなと期待を膨らませながら作りました。
 秋になってサツマイモの収穫ができるときにはふくろう祭りで皆さんの口にできればと思っております。
 今年も参加いただいた皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。
 (介護・神代)

ふくろうの郷へ研修に



▲ふくろうの郷で行われました。

5月3日(日)午後2時から、ダスキン研修生、マレーシアのイーハウさんとスリランカのカスンさんの研修報告会がありました。
 2人は去年の9月に来日され、初めの2ヶ月間は日本の手話を学び、各地のろう関係の施設等で7月まで研修を受け帰国されます。
 日本との文化の違いについて話されました。
 スリランカには、ろうあ

者が2万人いるそうですが、手話通訳者が5人しかいないことや、車の運転免許証を取ることが認められていないなど、福祉は大変遅れているそうです。
 また、マレーシアにはろう学校が小学校と中学校しかありません。
 でも、中学校は5年間通うそうです。
 ろう者だけでなく、盲者、知的障害者も一緒ですが、クラスは別に勉強しているそうです。
 2人とも日本の手話でスムーズに話され、感動しました。
 日本で学んだ事を帰ってから、ろうあ者の福祉の向上に生かすため頑張るそうです。
 淡路聴力障害者協会
 会長 齊藤 勇



▲前列右から 齊藤会長、イーハウさん、カスンさん、大矢施設長

～入所者紹介～ 永吉ハナエさん



▲ご家族と一緒に記念撮影。

今月は海ユニットで暮らしておられる鹿児島生まれの永吉ハナエさんを紹介します。

母の日と誕生日も近く、ご家族が会いに来られていましたので直接インタビューをさせていただきました。

まず、ご家族に「どんなお母様でしたか?」と、たずねると「よく仕事をする人、夜の9時ごろまで働いていました」「本当に苦勞人」と皆さんから答えが返ってきました。

野菜作りやお茶摘みなどいろいろな仕事をされていたそうです。中でも野菜の出荷の仕

事をされていたときには、野菜を一握りしただけで目方を判別できたので、周りから尊敬されていたそうです。

その頃の永吉さんの口癖が「勘の良い人が頭がいいのか、頭の良い人が勘がいいのか」と言っていたそうです。

永吉さんに「ふくろうの郷での暮らしはいかがですか?」とたずねると、「今まで子供の力で良い生活をさせてもらった。今はここ(居室)でテレビを見て、みんなにお世話してもらって、これ以上ない生活だ」と、笑顔で答えてくださいました。

ご家族には「鶯の鳴き声を聞いて楽しんで」とここでの生活をお話されたこともあるそうです。

「自慢の子供さんですね」とたずねると、指差して「この子が次男」と言っているの場面に笑いを作っていました。

あらためて聞き直すと「親孝行のみな自慢の子供たちだ」とおっしゃっていました。

ご家族の皆様、急なインタビューにお答えいただきありがとうございました。(介護・神代)



▲職員と一緒に昼ご飯作り。



※今月より当月生まれの皆さんと、職員も入って集合写真を撮影することにしました。

○後列右から職員

- 加藤 千香子(介護)
- 西口 淳子(調理)
- 高田 健史(看護)

○前列右から

- 田中 恒子さん (85)
- 大正13年5月15日
- 伯井 信良さん (72)
- 昭和12年5月11日
- 永吉 ハナエさん (92)
- 大正6年5月16日
- 石川 みつゑさん (93)
- 大正5年5月23日
- 長塚 淑子さん (60)
- 昭和24年5月28日
- 登 鈴子さん (79)
- 昭和5年5月5日

新入所者紹介



■ 北川他久美さん (67)

朝早くから夕食後までユニット、施設のお手伝いをしてくださっています。

恒例！春のたけのこ掘りに出かけました



▲大きなたけのこにびっくり！

春の日差しが照りつける中、4月28日と30日に、地元中川原の神代好孝様宅の山でたけのこ掘りをしました。

たけのこを掘ったことがない入所者もいて、みなさん興味津々でした。到着するや、一斉に山に駆け出し、軍手とくわをもち、掘り始めました。車椅子の入所者はみんながたけのこを掘る様子を楽しそうに見ていました。大きなたけのこや小さなたけのこがたくさん採れて皆さんうれしそうでした。採れたたけのこを車椅子の入所者に見せて触ってもらったら、みなさんよろこんでくれました。

五色図書館に書道展示



▲入所者も見に行きました

ふくろうの郷で入所者が書いた書道の作品が4月29日まで五色図書館に展示されました。

中でも入所者の藤本紀代さんは盲ろうの方ですが、汗水流して一所懸命掘っていました。藤本さん本人がとても楽しそうだったのが印象的でした。掘ったたけのこはふくろうの郷にもって帰って料理して食べました。場所を提供いただきました、神代好孝様には、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

(介護・角村)



たけのこを手にする藤本さん

大照寺花祭りに参加



▲水をかける松崎さん。

5月8日、中川原町二ツ石にある大照寺の花祭りに入所者が参加しました。甘茶とお餅をごちそうにもなり、みなさん、地域の行事を楽しまれたと思います。送迎にお手伝い頂いた地域交流会の皆様ありがとうございました。

理事リレーエッセイ ～夢の実現に向けて～

平成十四年、委員会が発足し、兵庫県下の高齢聴覚障害者の永年の夢である施設が洲本市中川原地区を建設地とし、着工に向けて動き出しました。多額最大の課題である。多額な建設費の自己負担三分の一を調達すべく、募金集めに苦難の道を歩みましたが、理事長はじめ、県下関係の方々のおかげで、努力が実を結び、三年あまりの歳月をかけて目標額を達成しました。

翌年工事着工の運びとなり、約二年かけて平成十八年四月一日、県下の障害者様たちの長い間待ち望んだ施設が完成しました。全国各地より大勢の方々が集い、盛大に落成式典が行われ、出席者全員の喜びに満ちた様子が今も忘れられることなく浮かんでまいります。幸いこの施設は、非常に優秀な施設長はじめ職員様に恵まれ、この立派な施設を環境の良い誰もが親しみやすい場へと誉れ高

い施設づくりに日夜努力してくれています。入所者様とのコミュニケーションも良く取れ、皆様方の明るい笑顔や、楽しんで生活を送っている姿を拝見致します。また、活動においても、地域交流会や手話勉強会等、様々な事業計画を展開しておられます。

最近の厳しい社会情勢の折、運営面も大変とは思いますが、施設の皆様方の団結と、何事にもくじけず歩む事が、成功への道しるべと信じております。後になりましたが、この施設の発起人様である小松理事様のご苦労くださいましたことは決して忘れる事はございません。そして残された皆で、この立派な施設を守っていく所存です。どうぞ天国より見守ってくださいませ。

理事 橋詰 武久

地域を語る

第5回 田園の風物詩田植え

地域交流会会長 北岡 肇

田園に囲まれた「淡路ふくろうの郷」、6月に入ると田植え作業が始まって行きます。

古くは牛耕で田起こし作業が行なわれていました。

また、田植え作業も木で作った「田植え枠」を田んぼに持ち込んで、一株一株、早苗を手作業で植えていました。

最近では全て田植え準備から田植えまで機械化で作業が行なわれ、エンジン音が静かな農村にこだましています。

昭和40年後半から米余りから減反政策が進められ、栽培面積の約32%が対象となっています。前年の水稲栽培面積は次の通りです。

- ▽洲本市 一〇〇八 ha
- ▽中川原町 一〇二 ha
- ▽中川原地区 十九 ha

(洲本市調べ)



▲乗用田植え機でスイスイと…



▲田植え枠を使っでの田植え



▲牛耕の姿は見られなくなりました

春の料理レク 「たこ焼き・よもぎ餅」



▲自分で焼くとおいしいよ!

4月末、昼食にたこ焼きを焼いて食べました。入所者さん自ら焼いたタコ焼きを食べました。食べるのもさることながら、料理することも入所者さんにとって楽しいです。5月5日には入所者の谷妙子さんがよもぎの葉をたくさん採ってきたことをきっかけに、みんなだよもぎ餅を作りました。皆さん楽しそうにおもちを作っていました。



作ったおもちは3時のおやつにいただきました。

手話教室始まる

ふくろうの郷の手話教室も今年で3年目を迎えました。新しい講師、受講生を迎え、5月9日から新しくスタートしました。



▲千里の道も一歩から…

職員向け手話講座開始

職員も一丸となって手話力向上を目指し、取り組みを始めています。



▲夜遅くまで頑張っています

淡路ふくろうの郷 地域交流会 手話教室のお知らせ

今年度も淡路ふくろうの郷で手話教室を開きます。講師はふくろうの郷の職員・入所者です。

- 参加費：1,500円(テキスト代含む)
- 第2,4土曜日(ただし6月・10月は休講)
13:30~15:00



<お問い合わせ> 淡路ふくろうの郷 担当：森岡
TEL：0799-25-8550 FAX：0799-25-8551

淡路ふくろうの郷 ふくろう喫茶よりお知らせ

ふくろう喫茶でふくろうの郷の入所の方々と一緒に楽しい時間を過ごしませんか。

- ◆開催日時：5月17日(日)13:00~15:00
- コーヒー・ココア・紅茶・
- カルピスなどなど1杯¥200より
- ※次回は6月21日(日)13:00~

